



地方独立行政法人
市立大津市民病院
Otsu City Hospital

感染症ERのご案内



令和2年12月

院長挨拶

平素より市立大津市民病院に対し御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当院は県内唯一の第一種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れてきましたが、院内感染のリスクが高まったことで診療体制の制限を余儀なくされ、ERにおいても患者の受け入れを制限せざるを得ない状況に見舞われました。「とまらない救急」を掲げ、多数の患者を受け入れてきた当院にとって、この事態は大きな痛手でした。

そのため、「感染症指定医療機関」と「とまらない救急」という2つの使命を両立する体制作りが喫緊の課題であると考え、本年6月から院内に感染症用ERプロジェクト会議を設置して検討を重ねてまいりました。9月下旬には工事に着手し、このたび感染症救急外来「感染症ER」を開設いたしました。

今後も“市民の命を守る”、“地域医療を守る”という責務を、これまで以上に果たすために職員一同団結して頑張ってまいります。



院長 若林 直樹

<感染症ER完成までの経過>

令和2年5月	院内の新型コロナ感染症対策本部会議において、感染症ER設置の検討開始
6月 1日	院内に感染症用ERプロジェクト会議を設置
7月21日	建築設計業務開始
9月 1日	建築設計業務完了
9月16日	建築工事着工
10月 5日	院内に感染症ER運営会議を設置
12月12日	X線CT装置設置完了
12月14日	建設工事完了
12月15日	竣工検査

工事写真



着工前



基礎工事



建方工事



工事完了



外構工事



外装工事

施設の概要

所在地／滋賀県大津市本宮二丁目9番9号

構造／木造（平屋建）

建築面積／198.40㎡

事業費／【全体】 約181.1百万円

<内訳>

建築費 133.5百万円

X線CT装置設置費 47.6百万円

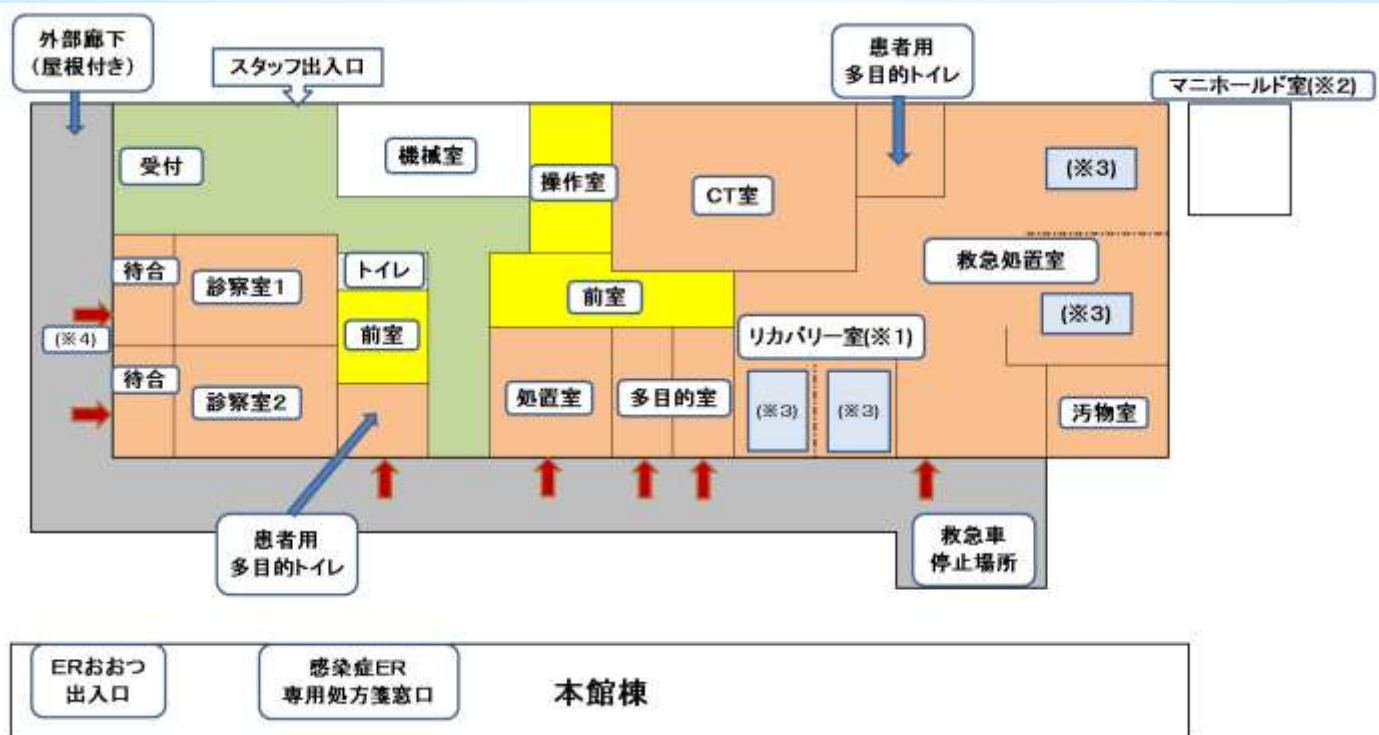
< X線CT装置 >



施設の特徴

- 患者と医療従事者の動線を完全に分離するため、外部廊下を設置
- レッドゾーンは、病原体が室内に滞留しないように陰圧を確保
- 床面を全て拭けるように壁掛け式のトイレを採用
- 汚染された水が壁や床に飛散ないように、手洗い台は水撥ね防止タイプを採用
- 部屋の隅まで拭けるように、床材を壁まで巻上げて施工
- コード類が床面に垂れ下がらないように、コンセント位置を通常より高い位置に設置
- 感染エリアと非感染エリアの区別を床面の色で明確化
- 既存X線CT装置を使用せずに、撮影出来る感染症ER専用のX線CT撮影装置を設置
- 感染症ER専用の処方箋窓口を設置

フロアマップ



レッドゾーン : 患者滞在区域

イエローゾーン : PPE脱衣区域

グリーンゾーン : 清潔区域

(※1)点滴の投与や処置後の休憩を行うスペース

(※2)酸素ボンベ庫

(※3)ストレッチャー

(※4)患者用出入口

感染症ERの特徴

<受付>



受付をガラス張りにし、
窓口用インターホンを
設置

<手洗いシンク>



シンクを深くし、汚染
された水の飛散を防止

<外部廊下>



患者と医療従事者の動
線を完全に分離

<床面>



床面の色でゾーニング
床材を巻上げ施工

<陰圧>



病原体が室内に滞留し
ないようにベッドの頭
部分に排気口を設置

<前室>



PPE脱衣スペース

<コンセント位置>



コード類が床面に垂れ
下がらないように通常
より上部に設置

<患者用トイレ>



床面を全て拭けるよ
うに壁掛け式の便座
を採用

<病院の概要>

開設者 : 地方独立行政法人市立大津市民病院
開設日 : 平成29年4月1日
副理事長: 若林 直樹
院長 : 若林 直樹
所在地 : 〒520-0804 滋賀県大津市本宮二丁目9番9号
電話番号 : 077-522-4607 (代表)
許可病床数: 439床 (平成30年10月15日から)
一般病床 431床 (緩和20、救急22、ICU8ほか)
感染症病床 8床 (1種2、2種6)
ホームページ : <https://och.or.jp/>

<病院理念>

「信頼の絆でつながる、市民とともに歩む健康・医療拠点」

基本方針

「市民の命を守る病院」

- ・市民に寄り添い、健康をサポートできる病院
- ・24時間365日、常に安心して受診できる病院
- ・広域感染症発生時や大規模災害時などに対応できる病院

「地域医療を守る病院」

- ・患者とともにあり、患者を治し支える病院
- ・質の高い医療を提供し、地域のニーズに応える病院
- ・予防から緩和までがんに強い病院